

クリティカルシンキングのプロセスを  
論証型レポートやプレゼンテーションに活用するためのルーブリック

	十分できている (2)	ある程度できている (1)	改善の余地が大きい (0)
課題の理解	課題の背景や前提を明らかにし、この課題では何がどのように問題とされているのかを焦点化することに成功している。	課題の背景や前提の把握が曖昧で、この課題では何がどのように問題とされているのかの理解が不十分である。	課題の背景や前提の把握が未達成で、この課題では何がどのように問題とされているのかを理解できていない。
情報源と情報の信頼性	信頼できる情報源から、正しい方法で、正確な証拠やデータを入手しているので、信頼性が高い。	必ずしも信頼できるとは言えない情報源から、証拠やデータを入手しているので、信頼性が高いとは言えない。	信頼性の著しく低い情報源から、不正確な方法で、あやふやな証拠やデータを入手しているので、著しく信頼性が低い。
多角的な視点からの検討	多角的な視点、複数の立場からの課題の吟味が、すみずみまで行き届き、自己の主張の観点を明確にしている。	多角的な視点、複数の立場から課題を検討してはいるが、自己の主張の観点が曖昧である。	著しく偏った視点や立場からのみ課題を検討しており、別の観点が存在することを想定することがない。
論拠の強さ	主張とそれを成立させるための根拠を、適切な証拠に基づいて結びつけることによって、強力な論拠の構築が行われている。	主張とそれを成立させるための根拠を結びつけるために使われている証拠が、必ずしも適切とは言えず、構築された論拠が若干弱めである。	主張とそれを成立させるための根拠の結びつきが不適切で、論拠の構築に失敗している。
反論の予測と対応	読者や聞き手からのあらゆる疑問や反論を予測し、批判的検討を加え、根拠のある再反論を有効に行うための事前準備を済ませている。	読者や聞き手からの疑問や反論を予測し、批判的に検討しようとしているが、再反論のために準備された根拠が若干弱めである。	自己の主張を行うための活動に終始し、読者や聞き手からの疑問を予測するような余地が見受けられない。
主張の範囲と限界の自覚	主張は、限定された範囲でのみ有効であり、別の状況では全く、あるいは修正なしには、成立できないことを明確に自覚している。	主張は、限定された範囲でのみ有効であり、成立できない場合があることを理解しているが、不十分である。	主張は、あらゆる場面で有効であると信じている。